

PFS学習会

今年の夏の思い出といえば…、私たちの学習会では夏祭りをしたんです！内容はスーパースクイとかき氷。スーパースクイではポイを破らずにすくい続ける連人が現れたり…！はたまた、いちご、メロン、ブルーハワイの3色のシロップを使って見るも鮮やかな3層のかき氷を作る職人が現れたり！みんなて夏を満喫しました〜！（ブルーハワイの蒼）

みらie.

保護猫カフェに行ってきました！バスを改装して作られた場所で、猫ちゃんたちとかなり近い距離で過ごせました。駅からの道中はかなり暑かったけど、カフェの中は涼しくて、ドリンクの飲み放題も嬉しかったです。

猫ちゃんはお昼寝の時間だったようで、みんなボーとした様子。でも、おもちゃを差し出すと目で追ったり、手でつついたりしてくれました！

最初は猫ちゃんに怖がっていた方も、おもちゃで遊ぶうちに触ったりなでたりできるようになりました。（みらie.のパンダさん）

野球部

夏の思い出は、この学校に来て初めて野球の試合に出たことです。瑞穂球場で試合をやりましたが、そこで試合をするのは初めての経験でした。試合当日はあまり体調が良くなかったし、肩が痛くて思ったような投球ができなく失点が多くて負けてしまったので悔しかったです。めちゃめちゃいいグラウンドで設備も整っているところで投げたことはいい体験ができ、さらに野球部での初ヒットが瑞穂球場での試合でできたので、とても良い思い出になりました。（づっち）

野球部の試合観戦、前日練習も含めてすごく楽しかったです。ある選手がファーストゴロの時に一塁にカバーに入ってアウトにした時、思わず「あのベースカバー、昨日僕が教えたんすよ!!」って周りにアピールしちゃいました（笑）この活動を通じての子どもたちの成長も目を見張るものがあるけど、それだけじゃなくて家族に活動の話すようになり会話が生まれる相乗効果を及ぼしているんだと思うことに、また感銘を受けました。本当に素晴らしい活動ですね。これからもまた一緒に練習したり、試合やったりしましょう。（野球部ファン）

8月の歓喜。思えば、部活動が無かった名古屋みらい高等学院に初めてできた『野球部』。それは、生徒達の『やりたい』が実現した部活。生徒達とスタッフが一緒に企画書を作り、承認を得て2022年8月発足。今では、活動に共感してくれた関係機関が多数集まり活気のある部活動になっています。監督である自分が一番楽しんでいるのも事実。皆の夢が詰まった部活動、最高の夏を過ごせたことに感謝！（監督）

今年の夏の思い出について語りたいと思います。僕が通ってる名古屋みらい高等学院の野球部の事です。その野球部が立ち上がったのも1年が経ちます。今を振り返るとあつという間の1年でした。1年が経ち、今年パロマ瑞穂球場で試合する事が出来ました。最初聞いた時は嬉しさと楽しさみでいっぱいですが。僕は3番キャッチャーで出ました。キャッチャーとして皆をまとめたり引っ張ったりしてくのが大変でしたが頑張れました。僕達のチームは決して強い訳ではありません。上手いプレイが出来る訳でもないし、才能溢れる人がいる訳でもないです。でも僕は勝ち負けとか気にしないで、楽しく野球をする。それを一番にします。試合や練習でミスしたとしても励まし合い助け合う、試合や練習が終わった後皆で「今日も野球楽しかった。皆頑張ったね」って言い合える。そんな野球部にしていきたいと思っています。その為にみんな夏の練習に一生懸命励みました。（つばっち）





SUMMER



こどもとPFSと夏



名古屋みらい高等学院

夏真っ盛りの名古屋みらい高等学院での一コマ。本覚寺のご住職をお迎えしての講話。『浄土』についての話を聞いた後、子どもたちからの質問「どうしてお坊さんになったの?」についてわかりやすい解説がありました。後を継ぐということ、結婚・恋愛・子育てについて、これからやってみたいことなど、フランクに話があり、「お坊さんも自分たちと同じなんだ。」と子どもたちの目がキラキラ。住職からお守りを受け取る際は、全員が両手で頂き、丁寧に礼をしていました。(ひでちゃん)

あしタネ。

子どもたちもスタッフも全力で楽しめるイベントを開催! ヨーヨーすくいてまさかの2個取れちゃったワンシーンです。子どもたちが主体となって意見を出し合う「あしタネ。会議」で出た案を基に実施した夏祭りでした。ゲームコーナーや出店で充実した盛り上がるイベントで、スタッフも夏の思い出をつくる事が出来ました! (ちゃうちゅう)

あしタネ。夏祭りは楽しみにしていたけど、予想通り全部楽しかったー! 綿菓子づくりは上手く丸く巻けなくて難しかったけど、出来上がった食べたら美味しかったよ。特にオレンジ味が一番だったなあ。来年も夏祭りがあったら、綿菓子づくりのリベンジしたい! (あつくん)

夏の思い出は夏祭り! 射的が一番面白かった。型抜きは初めてで難しくて全部抜けなくて失敗したけど楽しかった。失敗した型抜きをちょっと食べてみたら、歯磨き粉のミント味がして美味しくなかった笑。他にも出店コーナーの焼きそば、たません、ポップコーンすくい、綿菓子、フルーツ飴は全部食べてめっちゃ美味しかったよ。夏祭りは来年もやりたい! (ばけかめ)

会場に運動スペースがないあしタネ。は、近くの公園に出掛けます。夏は日が暮れるのが遅いので、たっぷり身体を動かすことができます。長時間働いている保護者が多いので、公園に連れて行ってもらえることも少ないようで、子どもたちはここぞとばかりに思いっきり走ります。子どもたちのパワーに負けないぞ!! (スタッフ)

#栄でチルする?

夏の期間は、いつものヒロバスとは違って、テレビターヒロバならではの景観を楽しみながらチルをしました。屋外のオープンスペースだからこそ、のびのびさや自然を感じてゆったりする空間になり、利用者から「明日から頑張れる」「また来たい」「落ち着く」という声が...! スタッフもこの空間に溶け込んでその場の人たちとお話して、一緒にチルすることができました。(めいんくん)

こんな最高のイベントがあったなんて思えた時間でした。ほっと一息の場が、ステキな景色を見ながら過ごせることがとても良かったです! こんな時間が過ぎてラッキーでした! スタッフさんもやさしくて、とてもいい空間でした! 友達との時間をゆっくりしたのしむことができて、このようなイベントがたくさんあったらイイなと思いました。(通りがかりの10代女性)

Gallery



会報誌制作協力

株式会社たなごころ(就労継続支援A型事業所)／株式会社ビジョンクリエイツ

BRIGHT FUTURE

タイミング

あの時、
「言いたいことがあった」「聞きたいことがあった」「伝えたいことがあった」
「分かってもらいたいことがあった」「信じてもらいたかった」

子ども達から聞くことはどれも過去形ばかりだった。
どれだけ子ども達のことを聞いてあげられているのか疑問だ。
一度飲み込んだことはもう一度出すことはとても勇気がいるし難しい。

幼い頃、夏休みはとても待ち遠しくワクワクするものだった気がする。
もちろん友達と何をして遊ぶかも楽しみではあったが、
ぼくにとってはおじいちゃんと一緒にいれる時間が増えるのが何より楽しみだった。
おじいちゃんはどんな話でも微笑いながら聞いてくれた。
ぼくはずっとしゃべり続けていた。それをただただ聞いてくれていただけだった。
今思えば、おじいちゃんには夏休みはなく忙しい時間もあっただろう。
それでもぼくが話をする間はずっと聞いてくれていた。

ぼくにも過去形はあった。でもただただ聞いてくれる、信じてくれる存在が近くにいた。
そして過去形は消され、満たされていったように感じる。

タイミングはあるだろう。大人のタイミングと子どものタイミングは全く意味が異なる。
「今聞いてほしい」「今分かかってほしい」
その「今」にどれだけ向き合えるのかも大切な要素なのかもしれない。

子ども達にとって笑顔あふれる夏休みであって欲しいと願いつつ
私たち大人も楽しみながら過ごしていきたいと思う。

一般社団法人 愛知PFS協会
代表理事 星野 智生

コラム

vol.6

PFSに関わってくれている支援者さんに聞いてみた PFSってどんなところ？

近藤渚(こんどうなぎさ)さん

Q1. PFSに関わりがある部門

PFS学習会、#栄でチルする？

Q2. PFSで初めて関わった時のエピソード

学習会での子どもとの関わりが思い出です。エピソードと言えるほど、細かな出来事は思い出せませんが、みんなと関わる中で、世にいる子どもには本当にさまざまな性格、家庭、状況などあることを感じ、自分の将来の道を考えるきっかけになったことを覚えています。
また、関わりを続けていく中で、それぞれがたくさん話をしてくれたり、勉強も聞いてくれたりすると、それがやはり嬉しかったですね。

Q3. PFSに関わる方へ

こういう団体があることで、もう一度頑張ってみようかな、と思えるのかもしれません。寄り添うのか、背中を押すのか、先で待っているのか、それぞれに合わせた形で、存在してくれる場所だと思います。ぜひ、安心して、関わっていきましょう！



木子晃成(きごこうせい)さん

Q1. PFSに関わりがある部門

よりそい訪問サポートなごや、PFS学習会
あしタネ。、みらie。、名古屋みらい高等学院(野球部)

Q2. PFSで初めて関わった時のエピソード

よりそい訪問サポートなごやで子どもと関わっていた時、子どもの家の近くにあるショッピングモールに遊びに行っていました。初めは子どもに付き添い、モール内を回っていましたが、ふと支援員の私自身が気になる服を見つけたので「ちょっとあれ見ていい」と子どもに尋ねました。すると、子どもからは「えー、仕方ないけどいいよ」と許可してくれました。この時に私は「あれ？支援してんのどっちだっけ？笑」と心の中で笑っていました。実際には支援する云々というよりは見えな関係性がそこにはあるのではないのかなと思いました。

Q3. PFSに関わる方へ

私がPFSに関わり始めた際は「子どもの状況をいい方に持っていきたい」そんな気持ちがあったと思います。ただそれは自分の理想的なものを押し付けているのかなって最近では思います。子どもは自身で考えている理想があって(例えば、ただ好きなアニメの会話をするとか)関わっている私はそれに近づいていく(寄り添う)。支援ってそういうものなのかなって思っています。今後価値観は変わるかもですが笑、今はそう思います。

